

○前橋市立 共愛学園 (中高生)

講師：群馬県河川課、前橋市防災危機管理課

日時：令和3年10月14日 (木)

手法：配信方式 (講堂で撮影し、各教室に配信)

対象：全中学生、高校生

教材：県、市の用意したスライド

内容：『水害に備えて』

(県)

水害リスクの説明

水害リスクの確認方法

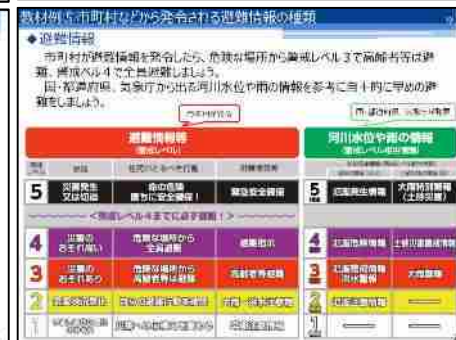
防災情報 (河川情報) の確認方法

(市)

ハザードマップについて

防災情報の確認方法

備蓄品について



【講習会・防災教育資料】



【実施の様子】

支援例：渋川市立 橘小学校（R4.6.8実施）

○渋川市立 橘小学校（小学4年生）

講師：前橋地方気象台 職員

日時：令和4年6月8日（水）

手法：対面

対象：小学校4年生（時間を分けて2クラス実施）

教材：気象台のパワーポイント（動画あり）

内容：（所要時間：45分）

『急な大雨、雷、竜巻から身を守るために』

- ・ ○×クイズ
- ・ 「これはあぶない！被害編」動画：6分
- ・ 「これなら安心！解説編」動画：11分
- ・ 質疑応答



【教材（スライド）】



【実施の様子】

学校からのコメント：

- ・ クイズや映像を交えながらの防災に関する授業だったので、子ども達にとってわかりやすかった。
- ・ ポイントごとの講師の先生の解説もわかりやすかった。

支援例：太田市教員向け防災講習（R4.7.29実施）

○太田市教員向け防災講習

講師：河川課防災係職員

日時：令和4年7月29日（金）

手法：WEB会議

対象：太田市内小学校教諭 24校33名

教材：河川課作成パワーポイント（動画あり）

内容：（所要時間：70分）

- ・ 災害・防災に関する基本的な知識
 - 県・市町村の役割
 - ハザードマップの見方、防災情報について
 - マイ・タイムラインについて
- ・ 防災教育への支援
 - 県から提供可能な写真・動画等
 - 災害疑似体験
 - ひなん所シミュレーション
 - ぼうさい探検隊の紹介

学校からのコメント：

- ・ 台風第19号の被害状況を知ることができてよかった
- ・ 疑似体験アプリは臨場感があり、意識向上につながると思う。授業に取り入れたい。
- ・ 川が増水する様子動画を見て危険を実感できた。



47

ひなん所シミュレーション

- ・ 「いろいろな人の立場となり、自分なりの答えをだす」
- ・ 「もし学校の体育館がひなん所になったら、あなたはどうしますか？」という問いに対して、「はい」が「いいえ」で回答し、理由を話し合う。

【クロスロード】
阪神・淡路大震災で神戸市議員が実際に直面した「災害対応のシレンマ」をカードゲーム化したもの。
ルールは、設問に対しYesかNoが決めるだけ。シンプルなシミュレーションで防災の心を育てることができます。

46

ひなん所シミュレーション①

- ・ <あなたは避難所の運営係です>
- ・ 問 300人の避難者に対して、200人分のお弁当が届いた。このお弁当をすぐに配りますか？
- ・ <はい：すぐに配る>
- ・ <いいえ：すぐに配らない>

【教材（スライド）】

支援例：伊勢崎市立 豊受小学校 (R4.9.1実施)

○伊勢崎市立 豊受小学校 (全学年)

講師：河川課防災係職員

日時：令和4年9月1日(木)

手法：各教室の電子黒板に別会議室から配信

対象：全学年

教材：河川課作成パワーポイント

内容：(45分程度)

①川の役割について

②水害について

<避難訓練の実施> (1、2年生は上の階へ避難)

③県・市町村の役割

④ハザードマップの見方

⑤災害疑似体験

⑥備蓄のお願い<備蓄物資の配布>

学校からのコメント：

- ・ 普段の授業で扱いたくても時間の関係で扱えない内容が多分に含まれておりよかった。
- ・ 児童の住んでいる地域の情報があったことで、児童が自分のこととして受け止めることができていた。
- ・ 川が増水している写真は1年生にも分かりやすく、怖い！という声が上がりました。



【教材(スライド)】

【実施の様子】



【配布物】

支援例：藤岡市立 美九里東小学校（R4.9.13実施）

○藤岡市立 美九里東小学校（4年生）

講師：市役所職員、群馬県職員

日時：令和4年9月13日（火）

手法：授業形式

対象：小学4年生（11名）

教材：作成したパワーポイント

内容：（45分程度）

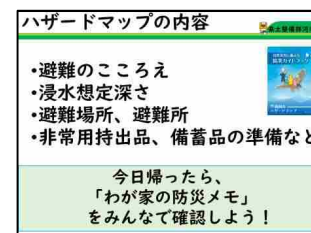
①藤岡市役所の防災に関する取組（市説明）

- ・ 災害が起きる前(平時)、災害が起きた後の対応

②水害に備えて（県説明）

- ・ 災害について
- ・ 台風第19号の被害について
- ・ ハザードマップの見方
- ・ 災害疑似体験

③質問



【教材（スライド）】



【配布物】



【実施の様子】

学校からのコメント：ハザードマップで住んでいる地区を眺めたことが子供たちの印象に残った。

生徒からのコメント：ハザードマップを初めて見た。いつでも逃げられる準備をしておきたい。

避難所を確認したい。これからは防災について考えたい。備蓄をそろえたい。

支援例：富岡市立一ノ宮小学校（R4.10.4実施）

○富岡市立 一ノ宮小学校（5年生）

日時：令和4年10月4日（火）

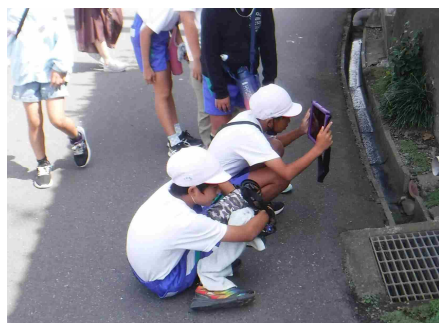
手法：課外授業

同行者：自治会、先生、保護者ボランティア

対象：小学5年生（30名）

教材：ぼうさい探検隊（日本損害保険協会）

内容：班に分かれ、専用アプリの入ったタブレットを用いて、地域の危険箇所を写真で撮影、地域住民へインタビューし、記録をする。（3時間程度）



2班 ぼうさい探検隊マップコンクール

安全なポイント きけんなポイント インタビューポイント

2班 ぼうさい探検隊マップコンクール

ポイント1 安全 ひなん場所、学校 さいがい時に役に立つ。避難場所になっている。	ポイント2 安全 ひなん場所 さいがい時に役に立つ。避難場所になっている。	ポイント3 きけん がけやしゅう 急なしゅう道がある。かまにさいがいひびがあった。	ポイント4 きけん がけやしゅう 急なしゅう道がある。かまにさいがいひびがあった。
ポイント5 きけん がけやしゅう さいがいきけんエリアに指定されている。災害危険エリアになっている。（メモ6から7まで）	ポイント6 きけん がけやしゅう ブロックへいがある。さいがいきけんエリアに指定されている。災害危険エリアになっている。（メモ6から8まで）	ポイント7 きけん がけやしゅう さいがいきけんエリアに指定されている。災害危険エリアになっている。（6から8まで）	ポイント8 きけん かまにさいがいひびがあった。高田川は、水がたまりやすい。
ポイント9 きけん 水漏 かまにさいがいひびがあった。あふれたことがある（メモ10から11）。	ポイント10 きけん 水漏 かまにさいがいひびがあった。あふれたことがある（メモ10から11）コンクリートの色がかわっているから。	ポイント11 きけん がけやしゅう かまにさいがいひびがあった。2019年に土砂くずれが起きた。（11から12）	ポイント12 きけん がけやしゅう かまにさいがいひびがあった。2019年に土砂くずれが起きた。（11から12）
ポイント13 きけん ブロックレイ ブロックへいがある。かまにさいがいひびがあった。台盤でブロックへいがくずれそうになっている。	ポイント14 きけん 浸水した事がある場所 かまにさいがいひびがあった。浸水した事がある。		

2班 ぼうさい探検隊マップコンクール

学校からのコメント：ハザードマップで住んでいる地区を眺めたことが子供たちの印象に残った。

生徒からのコメント：ハザードマップを初めて見た。いつでも逃げられる準備をしておきたい。

避難所を確認したい。これからは防災について考えたい。備蓄をそろえたい。

支援例：安中市立第一中学校（R4.10.31実施）

○安中市立第一中学校（1～3年生）

日時：令和4年10月31日（月）

手法：WEB配信

手法：各教室の電子黒板に別会議室から配信

対象：全学年

教材：河川課作成パワーポイント

内容：（50分程度）

- ・はじめに（群馬県）
- ・台風第19号について（群馬県）
- ・ハザードマップの見方（安中市）
- ・マイ・タイムライン作成（安中市）
- ・防災情報の収集方法、備蓄のお願い（群馬県）
- ・さいごに（安中市）

※配信後、備蓄物資の配布

～アンケートの主な結果～

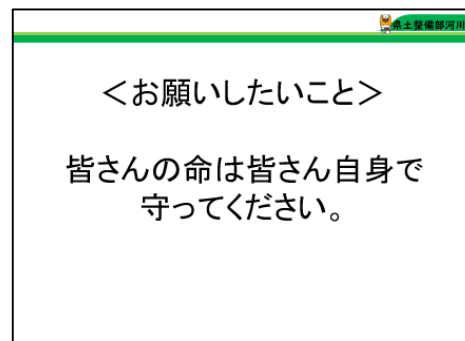
- ・台風後の増水した写真は印象に残った。自分ごととして捉えることができた。
- ・自分の命は自分で守る。助けられる側から助ける側へというメッセージが心に残った。
- ・タブレットに保存して見たハザードマップの解像度が粗い。マイ・タイムライン作成の時間が短かった。
- ・職員が教室に出向き、生徒にアドバイスしてほしい。



配信の様子



授業の様子



中学生への呼びかけ



タブレットでハザードマップを確認

支援例：沼田市立升形小学校（R4.11.15実施）

○沼田市立升形小学校（3年生）

講師：利根沼田広域消防、消防団、群馬県職員

手法：対象学年が4班（1班5名程度）に分かれ、
ブースを順番に回り学習する。

対象：小学3年生（24名）

教材：河川課作成パワーポイント、消防資機材展示

内容：沼田市出前講座の一部で実施（80分程度）

河川課ブース：ぼうさい教室（15分×4班）

（ア）災害ってなに？

（イ）沼田市ハザードマップ紹介

（ウ）災害体験AR

（エ）気象庁のビデオ（流れる水の中は歩けない）

（オ）最後におねがい



実施の様子



ハザードマップ紹介



災害体験AR



消防車両による展示

～アンケートの主な結果～

・浸水体験をしたあと、流れる水の中では動けないビデオを見せていただき、子どもたちは災害の怖さをリアルに学習できたと思う。説明もわかりやすくありがたかった。

支援例：孺恋村立孺恋中学校（R4.12.2実施）

○孺恋村立孺恋中学校（1年生）

講師：NHK前橋放送局 新村美里氏（気象予報士、防災士）、群馬県職員

手法：対面 対象：中学1年生（61名）

内容：NHK前橋放送局と群馬県で連携し、防災教育を実施

①防災教室（NHK前橋放送局 新村美里氏）（40分）

ぐんまちゃんを用いたオリジナル動画等を用いて説明。

- ・ 天気、台風第19号の状況について（ニュース映像有り）
- ・ 土砂災害の前兆、ハザードマップ、備蓄、防災クイズ

②群馬県河川課（10分）

- ・ 台風第19号の被害状況、孺恋村ハザードマップの紹介
- ・ 台風第19号時のドローン映像



NHK前橋放送局



ドローン映像

～アンケートの主な結果～

- ・ 身近な事例を取り上げて話してくれたので興味を持つ内容だった。
- ・ 実際の映像はインパクトもあり、災害の恐ろさを実感した。
- ・ NHKと群馬県（協議会）の連携を高めることで、より効果的で訴求力のある防災教育を行うことが出来ると感じた。（NHK）

支援例：高崎市立車郷小学校（R5.2.14実施）

○高崎市立 車郷小学校（6年生）

講師：高崎市職員、群馬県職員

手法：対面 対象：小学6年生（13名）

内容：避難所開設について、高崎市と群馬県で実施

①「災害に備えて」群馬県河川課（20分）

②「避難所開設について」高崎市（20分）

③段ボールベッド組立体験（15分）

県・市で備蓄している段ボールベッドを組立
段ボール間仕切りの見学

④防災クロスロード（30分）

「あなたは災害時、どう行動するか」

を題材とした問題を出し、意見交換

～アンケートの主な結果～

- ・子供たちは、防災クロスロードの問題に対して真剣に悩み、災害時に判断することの難しさを学べた。
- ・民間の防災教育の教材があることを知らなかったため、活用したいと思う。
- ・災害が起きたときにどう行動するか、教員も知っておかなくてはいけない。児童と共に学ぶことができた。
- ・段ボールベッド組立など、体験する授業があったことで、防災に興味を持てた。



実施の様子



避難所設営
体験



防災クロスロード（NHKのホームページを利用）

もんだい

・あなたはおうちでひとりです番をしています。近くの川から水があふれてきました。ひとりで逃げる場所になっている学校に行く？それともおうちの人が帰ってくるまでまつ？

A 一人で学校に 逃げる	B 家族が帰るの をまつ
---------------------------	---------------------------

支援例：館林市立第二小学校（R5.2.9、2.22実施）

○館林市立 第二小学校（4年生）

講師：前橋地方気象台、群馬県

手法：対面 対象：小学4年生（55名）

内容：

【2/9】 座学

① 前橋地方気象台（45分）

② 群馬県河川課（45分）

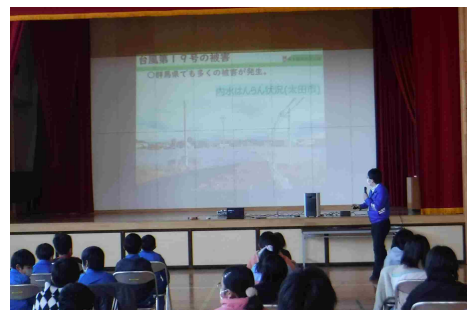
【2/22】 防災まちあるき・ハザードマップ作成

・事前説明（30分）

・防災まちあるき（70分）

・ハザードマップ作成（70分）

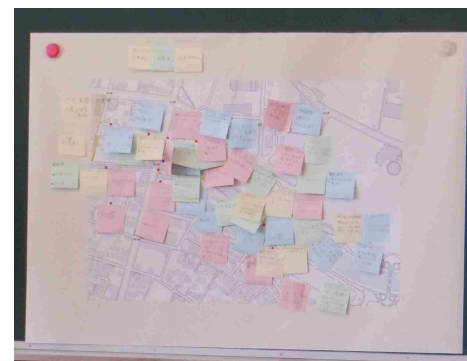
・館林市防災士によるまとめ（10分）



実施の様子（2/9）



まちあるき（2/22）



気づきをマップに整理



地元防災士によるアドバイス

～アンケートの主な結果～

・まちあるきでは、普段歩いているところを、説明を聞きながら危険箇所を調べられ、とても楽しかったようだった。振り返りでは、たくさんの気づきが児童から出て、さらに専門家からアドバイスをいただき、学びを深めることができた。

・タブレットを操作したり、何かワークシートに記入するような作業的なものを取り入れていけると、子どもたちの集中力が持続できてよかった。